

地理歴史科（歴史総合）学習指導案

1 単元名 近代化が進む日本と東アジア

「B 近代化と私たち」「(3) 国民国家と明治維新」

2 単元目標

- (1) 日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争などを基に、立憲体制と国民国家の形成や列強の帝国主義を経験した東アジア諸国の変容を理解する。
- (2) 日本の近代化や東アジアの変容に関する資料を読み取り、分析する技能を身に付ける。
- (3) 国民国家の形成やその影響などに着目して、東アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして国民国家の特徴や社会の変容などを考察し、表現する。
- (4) 国民国家の形成や東アジア諸国の変容について見通しを持って学習に取り組み、主体的に追究する。

3 単元計画（全体7時間）

(1) 指導計画

- ・新政府の誕生 1時間
- ・近代国家を目指す日本 2時間（本時2/2）
- ・日本と清の近代化と日清戦争 1時間
- ・列強の中国進出と日露戦争 1時間
- ・日露戦争が与えた影響 1時間
- ・小単元のまとめ 1時間

(2) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・日本の立憲体制と国民国家の形成や列強の帝国主義を経験した東アジア諸国の変容を理解している。 ・日本の近代化や東アジアの変容に関する資料を読み取り、分析している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民国家の形成やその影響などに着目して、東アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりして国民国家の特徴や社会の変容などを考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国民国家の形成や東アジア諸国の変容について見通しを持って学習に取り組み、主体的に追究しようとしている。

(3) 指導内容及び評価計画 (○…「評定に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」)

時	学習内容	ねらい・学習活動	評価の観点			(B) 具体的な評価規準 (C) 具体的支援	評価方法
			知	思	態		
第1時	【学習課題】〈単元を貫く問い〉「東アジア諸国は近代化によりどんなことが一番変化したか」 ・単元を貫く問い	【ねらい】小単元の単元を貫く問いを確認し見通しを持つ。			●	(B) 第7時にまとめて評価する。	・ワークシート① 〈単元を貫く問い〉 > (初回)
第1時 (続き)	【学習課題】「明治維新の前後で国の仕組みはどのように変化したか」 ・明治政府の成立	【ねらい】明治政府の改革内容について理解する。	●			(B) 日本の中央集権化や身分制の変化について理解している。	・ワークシート① 〈本時の問い〉
第2時	【学習課題】「明治初期の日本国民はどの程度政治に参加できたか」 ・近代国家を目指す日本	【ねらい】国会開設や憲法制定に関する知識を身に付ける。日本国民の政治参加の度合いについて理解する。	●	●		(B) 日本の制限選挙制や国境画定について理解している。どんな憲法が日本に必要なか考えている。	・ワークシート② 〈本時の問い〉
第3時	【学習課題】「あなたは伊藤博文が考えた憲法案は正しかったと考えるか？それとも他の可能性があったのか」 ・伊藤博文の欧州憲法調査に関するグループワーク	【ねらい】英仏独の憲法や政治体制を比較し、明治憲法を評価する。		○	○	5(1)参照 5(2)参照	・ワークシート③ 〈学習課題及び振り返り〉

第4時	<p>【学習課題】「近代化により日本・清・朝鮮の関係はどうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本と清の近代化と日清戦争 	<p>【ねらい】近代化と日清戦争が日本・清・朝鮮の関係の変化について理解する。</p>	●		<p>(B) 清は朝鮮の宗主権を失い、日本は朝鮮への進出を目指すことを理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート④ <本時の問い>
第5時	<p>【学習課題】「日清戦争の後、日本と清にはどのような変化があったか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 列強の中国進出と日露戦争 	<p>【ねらい】列強による中国分割の進展と日本のさらなる近代化について理解する。</p>	●	●	<p>(B) 日露戦争について主戦論・非戦論を踏まえて自分の意見を表現している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート⑤
第6時	<p>【学習課題】「日露戦争の結果は世界にどんな影響を与えたか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 日露戦争の影響 	<p>【ねらい】日本の勝利がアジアのナショナリズムを刺激したことを理解する。</p>	●		<p>(B) アジア諸国の日本への評価が期待から失望へと変わったことを理解している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート⑥ <本時の問い>
第7時	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 単元を貫く問い 	<p>【ねらい】基本的な知識を確認し、定着度を図る。</p> <p>【ねらい】小単元を振り返り、東アジア諸国の変容について考察する。</p>	○	●	<p>(B) 学習を振り返り、今後の見通しを持って主体的に追究しようとしている。</p> <p>(C) 不足している点を指摘し、もう一度解答させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト ワークシート <単元を貫く問い> > (最終)

4 本時の指導と評価の計画

(1) 本時の目標

- ア 明治憲法制定過程の伊藤博文の考えを基に、明治憲法の特徴について日本と諸外国の状況を比較しながら考察する。
- イ 明治憲法制定過程の伊藤博文の考えを基に、明治憲法の特徴について、主体的に追究し今後の学習の見通しをもつ。

(2) 本時の展開

(○…「評定に用いる評価」 ●…「学習改善につなげる評価」)

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> グループ分け イントロダクション (伊藤博文の略歴) 	<ul style="list-style-type: none"> グループ分けを行い、アイスブレイクを行う。 伊藤博文の略歴と欧州憲法調査の概要の説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> 話しやすい雰囲気を作り、発表、司会、書記の役割を振り分ける。 提案班 a, 提案班 b, 明治政府班が近くなるよう座席を移動させる。
展開 (30分)	<p>【グループワーク】「あなたは明治政府にどんな憲法案を提案するか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 提案の検討 プレゼンテーション 明治政府班の審議と評価 伊藤博文の憲法案と私擬憲法 	<ul style="list-style-type: none"> イギリス、フランス、ドイツの憲法を基に、明治憲法に入れるとよい憲法案を検討する。 明治政府班に対して、提案班がプレゼンし、明治政府班はその結果を「判断のポイント」を参考に審議し、結果を伝える。 明治政府班は、提出班の提案を予想する。 提案班は別グループの提案を聞き、自分の班と比較する。 伊藤が考えた憲法案とその背景をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導を行い、良い提案や表現については全体で紹介し共有する。 伊藤が日本の状況を踏まえて憲法案を作成したことや私擬憲法の紹介から、当時の人々が憲法を通して国の現状や在るべき姿を真剣に考えていたことが伝わるようにする。

	学習内容	学習活動	指導上の留意点・評価
まとめ (10分)	<p>【学習課題】「あなたは伊藤博文の憲法案は当時の日本にとってふさわしかったと考えますか？それとも他の可能性がありましたか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習課題と振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題と振り返りについてクラウド・アプリまたはワークシートを使って提出する。 学習課題については賛成を青・反対を赤のカードに示す。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価規準を参照させ方向性を示す。 ○ワークシート2(2)1, 2 【思】【態】

*クラウドアプリ：ロイロノート・スクール（株式会社LioLo, 以下「ロイロノート」と表記）

(3) 本時の評価規準 5(1)(2)参照

5 評価問題及び評価規準

(1) ワークシート2(2)1【思考・判断・表現】

明治憲法制定過程の伊藤博文の考えを基に、明治憲法の特徴について日本と諸外国の状況を比較しながら考察している。

ワークシート2(2)1の内容

「あなたは伊藤博文の憲法案は当時の日本にとってふさわしかったと考えますか？それとも他の可能性がありましたか？」
ワークシート2(2)1の判断基準
「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・伊藤案への賛否について理由を明確にして表現している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・伊藤案への賛否について当時の日本と諸外国の状況を比較しながら表現している。
「努力を要する」状況(C)と判断される例とその生徒への支援
・明治憲法の特徴について確認させた上で、自分の意見を改めて表現させる。

(2) ワークシート2(2)2(振り返り)【主体的に学習に取り組む態度】

明治憲法制定過程の伊藤博文の考えを基に、明治憲法の特徴について、主体的に追究し今後の学習の見通しを持っている。

ワークシート2(2)2の内容

「本時の振り返りを行い、資料の読み取りや話し合い、発表について振り返りましょう。また、自分の解答を検証するとして、明治憲法について今後どのようなことを学習していけばよいか記入してください。」
ワークシート2(2)2の判断基準
「おおむね満足できる」状況(B)と判断される例
・一連の活動について、うまくいった点やうまくいかない点について自己分析している。
「十分満足できる」状況(A)と判断される例
・一連の活動についてうまくいった点やうまくいかない点について自己分析しており、さらに学習を深めるための見通しを持って主体的に追究しようとしている。
「努力を要する」状況(C)と判断される例とその生徒への支援
・グループワークについてできたこととできなかったことを書き出させ自己分析を促す。

6 成果と課題

成果としては、単に問いに答えるのではなく「憲法案を提案し評価する」という課題を与えることで、生徒に問いに答える必然性を与えることができ、動機付けにもつながった。また、話し合いを行うだけでなくそれらをまとめ、提案する必要があるために、異なる意見を整理し裏付けとなる理由を考える過程で思考力・判断力・表現力を働かせることができた。ロイロノートを活用することで、通常では見えにくい生徒の考えが明らかになり、さまざまな考えをもちながら授業に臨んでいることが分かった。さらに、クラス全体の意見も可視化されるため、他の人がどう考えているかが分かり、意見を改めたり、深めたりする機会をつくることができた。

一方、課題としては提案パートと個人で賛否を考えるパートを両方行う必要があり、時間に余裕がなく、考える時間がもう少し欲しいという生徒が出てきた。個人で考える部分については、解答の紹介などは後日、評価後に行うことも考えられる。また、グループワーク・学習課題ともに当時の視点で解答するのが難しく、現

代的な視点で答えてしまう解答が散見された。対策としては、評価の段階で各国の政治体制など知識面を補うことが考えられる。

7 参考文献

- ・『日本憲法史』(大石眞 講談社学術文庫 2020年)
- ・『伊藤博文 近代国家を創った男』(伊藤之雄 講談社学術文庫 2015年)
- ・『ダイアログ歴史総合』(第一学習社 2022年)
- ・『ドイツ憲法集(第5版)』(高田敏他編訳 信山社出版 2007年)
- ・『岡山大学法学会雑誌 67-1』(岡山大学法学会 2017年 木下和朗「イギリスにおける人権保障」)
- ・「一七九三の憲法(訳)」(同志社大学学術リポジトリ <http://doi.org/10.14988/pa.2017.0000009332>)
- ・「権利の章典」(歴史文書邦訳プロジェクト <http://cryptiana.web.fc2.com/docs/billofr.htm>)